

令和7年度小牧基地慰霊行事



10月6日(月)、令和7年度小牧基地慰霊行事がしめやかに営われました。

始めに菅島慰霊碑前において、菅島事故関係者のご遺族、鯨島基地司令以下第1輸送航空隊主要幹部参列の下参拝が行われました。続いて基地慰霊碑前においてご遺族、ご来賓、基地司令以下基地所属部隊等の長及び基地所在部隊等代表隊員が参列し、追悼式が行われました。

菅島慰霊碑は、昭和58年4月に三重県鳥羽市菅島において、C-1輸送機2機の航空事故により殉職された14柱の御霊をお祀りしています。また、基地慰霊碑は平成16年6月、航空自衛隊創立50周年を記念して建立され、昭和34年の小牧基地創設以来、航空機事故及び訓練・業務事故等で殉職され、国防の礎となられた28柱の御霊をお祀りしています。殉職された28柱の御霊に対し哀悼の誠をささげるとともに、全隊員が飛行安全及び地上安全確保への決意を新たにしました。



防衛・基地モニター岐阜基地研修



10月15日(水)、防衛・基地モニターの岐阜基地研修を行いました。

本研修は岐阜基地において、第2補給処及び飛行開発実験団の研修を実施し、岐阜基地と小牧基地との機能、役割の相違を理解して頂くとともに、岐阜基地に設置されている準整地滑走路におけるK/C-130H輸送機の着陸訓練を体験頂き、航空自衛隊の輸送機の役割をより深く理解して頂くために計画されました。

あいにく、前日の降雨により、K/C-130Hの準整地着陸訓練の体験搭乗は中止となりましたが、それ以外の第2補給処及び飛行開発実験団での研修は計画通り実施しました。モニターの皆様は、初めて見る補給処の倉庫群の大きさや取り扱っている物品の多さに圧倒されながらも、熱心に説明に耳を傾けられるとともに、飛行開発実験団においては退役したF-4EJを間近で見学されていました。また、小牧基地では見ることのできない、戦闘機のフライトを滑走路近くで見学して、圧倒的な迫力に興奮されていました。

今後も航空自衛隊の部隊及び隊員に触れて頂ける機会設けて、より航空自衛隊及び小牧基地のことを知って頂ける様に企画して参ります。